

常任委員会とは、議案や市民のみなさまから提出された請願などを細部にわたり、専門的に審査するための機関で、議員はいずれかの常任委員会に所属しています。12月定例会で各常任委員会に付託された議案の主な審査概要は、右のとおりです。議案の内容については、前段のページで説明しております。

総務委員会

議案3件を承認・可決

本委員会に付託された案件は、分割付託事項を含む議案3件です。

議案第67号「連田市職員定数条例等の一部を改正する条例」では、「今回の改正により、環境学習館の所管課がみどり環境課から社会教育課へ変わるが、業務内容すべてを移管するという点でよいのか」との質疑に対し、「運営だけでなく、建物の管理なども含めて、すべて社会教育課へ移管します」との答弁があった。

議案第71号「令和6年度連田市一般会計補正予算（第4号）」の分割付託事項では、政策調整課の関係で、「総合振興計画の策定を1年前倒しで考えていることについて、契約までのスケジュールや、計画策定の大まかな全体計画

はどうなっているか」との質疑に対し、「来年に入ってからプロポーザルにより業者を選定し、3月中に契約、令和7年度から早速業務に取りかかる予定です。令和7年度は、計画策定に係る調査分析、市民意識調査、策定委員会や審議会等の会議を行い、令和8年度は、策定全般に係る会議等を行ったうえで計画書案を作成し、令和8年12月議会での上程を目標に進めたいと考えています」との答弁があった。

採決の結果、議案第66号は、総員をもって承認すべきものと決し、議案第67号は総員をもって、議案第71号の分割付託事項は賛成多数をもって、原案のとおり可決すべきものと決した。

民生文教委員会

議案6件を可決

本委員会に付託されました案件は、分割付託事項を含む議案6件です。

議案第68号「連田市立学童保育所設置及び管理条例の一部を改正する条例」では、「中央学童保育所に定員30人の第6という施設を増設することだが、既存の指定管理者に増設される第6についても運営をお願いすることになるのか」との質疑に対し、「現在の指定管理を委託している事業者に運営をお願いしたいと考えています」との答弁があった。

議案第71号「令和6年度連田市一般会計補正予算（第4号）」の分割付託事項では、保育課の関係で、「債務負担行

為の保育士派遣業務委託費について、令和7年度は3人の派遣を考えているのか。また、派遣される保育士の勤務形態はどのようになるのか」との質疑に対し、「3人の採用予定です。中央保育園、連田みめま保育園、東保育園の3施設に派遣予定で、勤務形態は週5日間フルタイムで働けるかたを希望する予定です」との答弁があった。

採決の結果、議案第68号、議案第72号及び議案第73号は総員をもって、議案第69号及び議案第74号は賛成多数をもって、原案のとおり可決すべきものと決した。また、議案第71号の分割付託事項は、採決にあたり1名が退席した後、総員をもって原案のとおり可決すべきものと決した。

建設経済委員会

議案4件を可決

本委員会に付託された案件は、分割付託事項を含む議案4件です。

議案第70号「指定管理者の指定について」では、「連田市自転車駐車場の指定管理者の選定にあたり採点基準に基づき評価したとのことだが、評価項目の中にある『自主事業の具体的な提案がある』という点については、どのような提案があったのか」との質疑に対し、「自主事業ということで、レンタサイクル事業を取り扱う計画があることを確認しています」との答弁があった。また、「評価項目の市内の雇用創出が期待できるということに関して、現在雇用されているかたの待遇や今後の雇用確保についての内容が提案に入っているのか」との質疑に対し、「事業者からのプレゼンテーションで、現在と同様にシルバー人材センターを活用する考えであるという話が出ています」との答

弁があった。

議案第75号「令和6年度連田市水道事業会計補正予算（第2号）」では、「営業費用のうち総係費の報酬について、審議会の開催数増加に伴う増額とのことだが、回数を増やして審議する何か課題などがあるということなのか」との質疑に対し、「上下水道事業審議会では、上水道と下水道の両方の事業について審議いただいておりますが、当初予算では、6回の開催を見込んでいたところ、既に5回開催している状況です。現在水道ビジョンの策定を進めていて、収集した資料の分析など、状況によっては追加で審議会を開催する場合を想定して、不足する額の増額補正をお願いするものです」との答弁があった。

採決の結果、すべての議案について、総員をもって原案のとおり可決すべきものと決した。



編集委員会

後列左より 武藤康史委員 木佐木照男委員 山田孝夫委員
前列左より 諸根善昭委員 勝浦敦委員長 秦邦雄副委員長 豊嶋遥委員

編集後記

令和7（2025）年は「昭和100年」にあたります。戦争の荒廃を乗り越え、国民が丸となった復興・発展を果したのが昭和という時代だといえます。その歴史を顧みることは、現在の厳しい日本を取り巻く国際情勢を考える上でも必要ではないでしょうか。私の昭和の記憶では、夢の超特急東海道新幹線が開業し初めて乗車した「ひかり」、学校の遠足での大阪万博が大きな印象に残っています。昭和を生きた世代として、さまざまな歴史の場面にノスタルジーを感じるかたも多いのではないのでしょうか。（山田孝）